

**第519回 長野放送番組審議会
議事録**

(令和3年5月)

株式会社 長野放送

第519回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和3年5月12日(水)
2. 開催場所 リポート事前提出による書面開催
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名全員リポート提出
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
 - 委員長 林 新一郎
 - 副委員長 井口 弥寿彦
 - 委員 加藤 恵美子
 - 委員 笹本 正治
 - 委員 佐藤 裕一
 - 委員 瀧川 浩
 - 委員 武重 正史
 - 委員 南澤 光弥○放送事業者側出席者名
 - 外山 衆司 (代表取締役社長)
 - 太田 耕司 (取締役 報道制作・企画事業担当)
 - 飯嶋 憲彦 (取締役 編成・放送番組審議会担当)
 - 春原 晴久 (報道制作局長)
 - 早川 英治 (編成局長)
 - 浅輪 清 (編成局次長 兼番組考査部長
兼放送番組審議会事務局長)
 - 北沢 輝久 (編成部長 兼視聴者室長)

4. 議題

(1) 番組審議

『 NBSフォーカス∞信州

信濃国歴史シリーズ14 古代史ミステリー

長野の古墳 ～発掘調査で謎を解く～ 』

令和3年3月26日（金）夜7時00分～7時57分放送

(2) 視聴者対応報告（令和3年4月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・文字や文献のない時代を発掘調査により解明してゆくことに、胸がわくわくするようなロマンを感じる番組だった。
- ・地域性を加味して歴史を認識するおもしろさを伝えた良い番組である。
- ・信濃の国の地政学的歴史と文化が現在の信州と信州人に脈々と息づいていることに深い感動を覚えた。
- ・興味深い内容を分かりやすく、かつ面白く、さらに南北に長い長野県、信濃国の成り立ちについて思いを巡らす知的な楽しみも味わえる、絶妙なバランスを保った優れた番組に仕上がっている。
- ・信州にも様々な古墳や古墳群が存在することが分かり、またヤマト王権など中央権力との結び付きにより、現在に繋がる文化が形成されてきたことが明らかになるたびに番組に引き込まれた。
- ・長野県内の複数地域で取材したことで、比較文化論的な多次元的アプローチが感じられ、番組に時空の立体感が生まれ、悠久の歴史に魅せられた視聴者の空想力を掻き立てることが出来た。
- ・その時代の権力者が治めた領土を見渡す場所に建設することで権力を内外に示したのではと解説していたが、映像もそのコメントに合致して墓所からの広がりを感じられ、当時の権力範囲を想像できたのがとても良かった。

- ・古墳や一帯の風景の美しい映像に、映画「インディ・ジョーンズ」や「ジュラシック・パーク」など耳なじみのある軽快な音楽を重ねた構成が、一段と関心を刺激しワクワク感を生む効果につながった。
- ・邪馬台国と対立していた狗奴国の候補地として東海地方が挙げられていたのも新鮮でしたし、その勢力と東日本最古級の弘法山古墳を築いた松本平の勢力とに、つながりがあったという内容も興味をそそられた。
- ・番組終盤で再登場した、発掘調査で謎を解く皆様から発せられた口上に、リアリティーとロマンの両存を感じられた。
- ・大和朝廷との関係など同時代の「横」の繋がり、「調理」「命の水」など現代へ通ずる「縦」の繋がり、関係性に広がりがあり、総じて、スケールの大きな番組。
- ・自分たちが習った歴史の教科書と現在のものとは、記述が変わっている部分が少ないことは知っていたが、実際に番組で「大和朝廷」ではなく「ヤマト王権」と紹介しているのに接し、発掘調査結果などを反映させた歴史学の進歩を実感させられた。
- ・ドローン等を使って全容が見えただけに、私が想像しているよりもいびつな古墳が多いと感じた。これはそういうものなのか、それとも月日がたったからなのか、疑問が残った。
- ・どの地域から影響されたのか、調査によってわかったことを日本地図で分かりやすく表現されていた。できれば日本全国に点在する古墳とのつながりを、あの矢印の先の部分が知りたいと感じた。
- ・どこか終盤で1回でも、弘法山古墳と平出遺跡、森將軍塚古墳、飯田古墳群の成立期を一つの年表の中にまとめて図示できれば、大きな時間の流れと地域、古墳の変遷をさらに認識しやすかったかもしれない。

- ・過去の発掘調査の集大成であって、サブタイトルから期待される「新たな発掘調査で謎を解き明かす」ことがほとんどなく残念だった。
- ・長野県住みます芸人ゆでたかのさんの進行ぶりは、親しみやすさと真面目さがちょうどよい“さじ加減”でした。
- ・ゆでたかのさんの起用により親しみ易さと信頼感を演出することができて、実績のある番組にふさわしいキャストだった。
- ・長野県住みます芸人ゆでたかのさんの起用に積極的意味が感じられない。
- ・ゆでたかのさんの起用は良かったが、案内人の歴史学博士の西山さんが男性なので、女性の方が、つり合いがとれたのではないかと思う。
- ・「ちゃいます」「でっけー」「あるんや」など関西弁はやや違和感あり。古墳は長野県の長い歴史を表象するものであれば生粋の長野県人のガイドンスで良いと思う。
- ・タイトル及び画面左上の表示の「長野の古墳」は県下全域としては馴染めないものであって、「信濃の古墳」とすべきではないか。
- ・画面左上のテロップ「長野の古墳」より「長野県の古墳」または「信州の古墳」の方が良い。理由は「長野“市”」か「長野“県”」なのかわかりにくい。
- ・古来、中央勢力と遠からず近からずの距離感にある信濃国、長野県の豊かな歴史の醍醐味を味わえる良質なシリーズを、ぜひ維持して行ってほしい。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和3年4月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・視聴者対応報告資料（令和3年4月分）
- ・第518回番組審議会（4月）議事録
- ・民間放送（第2177号）
- ・BPO報告（NO. 224、225）
- ・モニターレポート

『 NBSフォーカス∞信州

信濃国歴史シリーズ14 古代史ミステリー

長野の古墳 ～発掘調査で謎を解く～ 』

令和3年3月26日（金）夜7時00分～7時57分放送

以上